

新潟を離れて

中 島 和 俊*

御無沙汰しておりますが、皆様お元気で過ごしてでしょうか。新潟在住時には、一方ならぬ御高配を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。

平成18年4月から弊社大阪支店に配属となり、きちんと御挨拶も致さぬまま、11年間慣れ親しんだ新潟を慌ただしく後に致しました。失礼を御容赦下さい。本研究会在籍中は、幹事の責務も充分に果たすことができず、数々の失態もございました。ここに、深くお詫び申し上げます。

このような私にも寄稿の御依頼を頂きました。随分と迷いましたが、稚拙な文章ながらここに記させて頂くことと致しました。

新潟応用地質研究会には、新潟支店に赴任した平成7年から入会させて頂き、それから何年か後に弊社前任者から編集委員としての幹事を引き継ぎました。本研究会には、様々な分野で御活躍の方々が入籍されており、研究対象も多方面に渡り、雰囲気も和やかな、素晴らしい団体と感じております。新潟在住時には、もう少し会社業務を要領よく片付け時間を創り、本研究会へもっと積極的に参加させて頂いていればという思いでおります。

新潟の山々の稜線は、そろそろ雪化粧でしょうか。テレビ等で、新潟の各種報道に触れる度に郷愁の思いが込み上げます。また、最近の某学会誌では山古志村の近況が報告されており、随分復興が進んだのだなあ、と改めて中越地震に翻弄されたあの頃を思い出したりもしました。

新潟へ赴任した1年目は、厳しい冬に正直滅入っていた覚えがあります。低い曇天、高速での自動車の眼前を放射状に去っていくように見える夜間の猛吹雪、凍てつく路面を這う地吹雪等、西南日本の太平洋側で暮らしてきた私にとっては初めての経験でした。

反面、時折の晴れ渡る冬の日には、青と白のコントラストや、朝焼けが映る銀嶺等、美しい風景の広がり大きな感動も覚えました。

やはり冬の積雪には、私生活でも業務でも最後の年まで閉口致しましたが、それを凌いで余りある四季折々の風景、自然、食、そして人柄etc. と、年を重ねるにつれて新潟への愛着が強くなってきたように思います。新潟での楽しい思い出や素晴らしさを書き始めますと切りが有りませんので、この辺りと致します。

地質に関しましては、新潟では主に頸城の第三系を相手にしておりましたが、変成度が低く、個人の興味という点では少し物足りなさを感じておりました。大阪に赴任してから

*国土防災技術株式会社

は、久々に四万十帯、三波川帯という、大学時代や新潟赴任前の松山支店で扱った、各種の変形構造を強く残す地質帯と再会することとなり、幾分か寂しさを紛らわしております。弊社の大阪支店は、紀伊半島から丹後半島まで、かなり広域の守備範囲を強いられておりますので、今後は西南日本を横断する各地質帯に触れることとなりそうです。

このような思いを抱きながら気が付けば、新潟を離れて早8箇月が過ぎました。関西の状況にも少し慣れてきた気が致します。

何年か後には、再び懐かしい新潟へ戻る日もあるかもしれません。その折りには、また新潟応用地質研究会のお仲間に加えて頂きたく存じますので、今後とも、何卒宜しく願い申し上げます。

最後に、新潟応用地質研究会の益々の御発展を祈念致しますとともに、御親切にお付き合い下さいました皆様に対しまして、改めて深く御礼申し上げます。有り難うございました。